

## 身体運動における運動記譜法の応用<5>

～ ラバン記譜法に関する堀野研究の実践的交流と  
堀野式簡易舞踊記譜法への発展的経緯について ～

堀 野 三 郎

(平成11年10月29日受理)

### Application of Dance and Movement Notation in Physical Movement <5>

～ On Practical Exchange of HORINO's Study in Labanotation and  
the Developed Details for Simplified Dance and  
Movement Notation of HORINO-System ～

Saburo HORINO

(Received October 29,1999)

#### I. 序論と研究目的

身体運動の記譜法として、現存する諸種のシステムの中で現在までの世界的な活用度が高く、広範多岐にわたる研究成果や記譜実績を有するシステムとしてラバン記譜法がある。

前回発表(1999.3)の小論「日本における運動記譜法の今日的な課題について」(長崎大学教育学部紀要教科教育学 No.32)の中で、第3章<日本での長期継続的な運動記譜法の研究体制の必要性>を述べ、それに対応する最近の好事例として、① 一昨年(1997年)8月中旬に香港で開催された「第20回隔年ラバン記譜法国際会議(International Council of Kinetography Laban, 以下「ICKL」という) '97香港大会」の活動概要と、② 昨年('98年)3月中旬に東京を拠点に糟谷里美・木村はるみ・中村美奈子らを発起人として新発足した「ラバン記譜法学習・研究会」の動向等について報告・紹介した。(詳細は、同論I- <1> ; <3>を参照。)

更に、同論第5章<日本の運動記譜法発展への今後の課題>とした6項目の問題点と打開策の一つとして提示し、その最終項目(8)で「先ず、自分が必要とする課題(中略)に運動記譜法(中略)を使って、実践的にその利益を実感すること。」から始めることを提唱している。

本論の研究目的は、以下の2点である。

第1点は、ラバン記譜法に関する堀野研究の実践的交流について、事例的に報告することである。

これは、前述の最近の日本の運動記譜法研究の動向への先駆を成すものの一端として、筆者自身が過去約40年間にわたり関与して来た主にラバン記譜法に関する諸活動の中で、国

内的・国際的な場での組織面・対人面・普及用テキスト面・舞踊譜面等での交流に関する特記事項について、実践的な具体的資料例とその周辺に関して報告する。

換言すれば、前述の如く、ラバン記譜法の権威的な国際研究組織である「ICKL」やN.Yの「ダンスノテーション・ビューロー Dance Notation Bureau」等の管理下に接続する今日の日本の現状以前の、20世紀後半の日本の運動記譜法研究の先駆的な事例報告である。

第2点は、筆者が「堀野式簡易舞踊記譜法 Simplified Dance and Movement Notation of HORINO-System (以下「SDMN-HS」という。)」の開発に辿り着くまでの運動記譜法の発展的経緯について事例的に報告することである。

これは、前述の「運動記譜法研究の普及・発展は、先ずその活用を必要とする人自身が運動譜・舞踊譜を使い、その便利さ・有効さを実感することから始まる。」との提唱に対応する筆者自身の実感事例として、筆者考案の「堀野式簡易舞踊記譜法」について、それへの筆者自身の過去約23年間にわたる長崎での大学舞踊実技面・舞踊公演面等での具体的な活用例・先駆的な実践例と、更にパーソナル・コンピュータ(以下「パソ・コン」という。)による具体的なSDMN-HS譜例とを両者の時間経緯的な発展の視点から実践的な具体的資料例とその周辺に関して、事例的に報告することである。

## II. 本論

### 1. ラバン記譜法に関する堀野研究の実践的交流について

本論でいう実践的交流とは、堀野が関与したラバン記譜法研究の中で、国内・国外の組織面・対人面・舞踊譜面等での交流で、特記すべき事項を指し、その実践的な活動例・舞踊譜例とその周辺に関して年譜的にそれらの概要を事例的に報告する。

- (1) 1958(S33).3 堀野三郎著「ラバノテーションを中心とした舞踊譜の研究」(学部卒業論文として235枚の文献研究)を発表した。

これは、1956年初版のルドルフ・ラバン Rulolf Laban 著「舞踊・運動記譜法の原理 Principle of Dance and Movement Notation」を主要文献として、その全訳を中心に、ワルター・ソレル Walter Sorell 編「舞踊の多面性 The Dance has Many Faces」やUSA出版社による「ダンス・マガジン Dance Magazin」等に記載された各種の舞踊記譜論や記譜例等を援用して文献的な考察を行った。

- (2) 1958(S33).9 山野博大、堀野三郎、伊藤淳子ら11人の発起人により、「日本身体運動譜センター」が、東京を拠点として設立された。

これは、この当時として、記譜法システムとして理論的・実践的・実績的等の面から最も優良な運動記譜法を主対象として活用・研究していきたいとの主旨から、その時点で最良のものとてラバン記譜法を採用した。従って、将来的に理念的・普遍的な視点から更に有効な他のシステムやメソッドが展開した場合は、ラバン記譜法に止まらず、他のシステム導入・採用もあり得ること、それらの動向・展開も常に視野に入れて日頃の活動を行うこと等を主旨として結成され、また、研究対象は舞踊のみに止まらず、運動の記譜を必要とする全ての分野への適用等を考慮して「身体運動譜」の語をセンター名に入れた。

〔資料Ⅰ〕「日本身体運動譜センター設立の趣意書」よりは、当時の趣意書の一部を抽出したものである。なお、本資料の記載範囲では、前述の主旨は不明である。

〔譜例Ⅰ〕「日本身体運動譜センター設立の挨拶譜」は、同趣意書に記載されたラバン記譜法の記譜例紹介を兼ねた〈ご挨拶の譜〉（立位で上体前傾の一般的なお辞儀；両脚横開き・両腕横前開きでの能振りのお辞儀；床上に正座しての日本作法風なお辞儀の3種）である。

- (3) 1958(S33).12 日本身体運動譜センター運営委員会編著「ラバン記譜法Ⅰ」（同システム初級者用テキスト）を発行した。その発行に先立って、日本における公的な運動譜用語の検討が、原則として当時の体育用語・解剖医学用語等で使用されている専門用語に依拠して慎重審議され、決定された。

〔資料Ⅱ-1・2〕は、同センター発行のテキスト全三巻中の〈第一巻〉として編集・発行されたものの一部コピーである。同資料Ⅱ-1中で左側に記された〈ラバン記譜法〉の語は、当時それと対応する代表用語は、ヨーロッパ系では〈Kinetography Laban〉を用い、USA系では〈Labanotation〉を用いていた。それに対して、それらの二者の概念を統括する日本用語として、日本で最初に明示された公的名称を付した実践的ラバン・システム・テキストである。（なお、現時点では国際的な代表用語としては〈KinetographyLaban〉の語を用いている。）

また、同資料の右側中段近くにある〈初版発行期日〉や〈非売品〉の下に記された「253」の部数No.は、当時の同センターの普及活動の実質的な開始期日や、普及度を伺わせる数値例としても注目される。

なお、同資料の〈目次〉の内容（掲載割愛）は、Rudolf Laban著「Principle of Dance and Movement Notation」・Ann Hutchinson 著「Labanotation」・Albrecht Knust 著「Abriss der Kinetographie Laban」の三著を主要参考文献として作成したが、それらの展開順序や譜例等に関しては、日本人学習者に理解し易いように配慮し、及ぶ限り同センター工夫による独自の譜例も加味して編集されている。

また、同資料の基本的譜表の〈三線譜〉（掲載割愛）は、そのの中線に短斜線の拍節線を付している。これは、国際的な拍節線は短横線であるのに対して、前者は拍節箇所の確認が視覚的に後者に比して、より明確な利点を有することから、同センター独自の工夫として短斜線による拍節線を原則として記譜することとしている。

なお、同センターは、実質的には「ラバン記譜法Ⅱ」まで発行したが、その後、同センター・メンバーの勤務上の移動・離散や、USA関係者からの「ラバノテーション Labanotation」参照・使用に対する著作権的な圧力等が強くなり、約10年に及ぶ同センターとしての活動を停止して今日に至っている。

- (4) 1960(S35).3 堀野三郎著「体育運動における運動記譜法の応用」（専攻科研究論文として125枚の運動実践譜の記譜と課題についての研究）を発表した。

これは、主としてラバン記譜法による各種の体育運動の実践的な記譜と、それらの個々のケースに関する課題や提案を行ったものである。

それらの記譜例は、以下の諸運動である。：

〈保健運動：NHK新ラジオ体操第二〉〈陸上運動：スタート、ハイ・ジャンプ（ベリー・ロール；ロール・オーバー）〉〈運動能力検査：アイオワ・ブレイス・テスト

><舞踊運動：そうらん節；オスロー・ワルツ><モダンダンスの基本運動：江口隆哉システム第Ⅰ課程><器械運動：平均台；跳馬；鉄棒><スキー運動：直滑降→全制動→パラレルに戻る→シュテム・ボーゲン→斜滑降→山廻りクリスチャニア→（停止）>等である。〔それらの一部詳細に関しては、既報の小論「身体運動における運動記譜法の応用」<1>～運動の記録再現手段としての絵画的・言語的表現およびフィルムと運動記譜法との比較について～（長崎大学教育学部教科教育学研究報告第51号pp. 39～42 1885）を参照。〕

〔資料Ⅲ〕左側の<譜例2>は、1959年に筆者が採譜し、研究報告に記載した北海道民謡「そうらん節の舞踊譜（以下「そうらん節譜」という。）」であり、同資料右側の<譜例3>の「SORAN-BUSHI譜」は、前者の約15年後、文部省派遣長期在外研究員としてイギリスのザ・ラバン・アート・オブ・ムーヴメント・センター The Laban Art of Movement Centre（以下「ラバン・センター」という。）のスペシャル・コースの「Dance and Movement Notation」のレクチャー（ポーリン・デイ Pauline Day 女史担当授業）の課題の一つとして提出したものである。

なお、後者の記譜に当っては、前者の記譜参照無しで行った故に、両譜比較は、諸々の視点から興味深いと言える。

また、前者の「そうらん節譜」を1989年に採譜してから約4年後に、この「そうらん節譜」は、現ワシントン大学勤務の運動記譜法研究家カール・ウォルツ Carl Woltz 氏との交流を深める契機となったが、その詳細に関しては次項にゆずる。

- (5) 1963(S38). 10 同月中旬に当時ハワイ大学東西文化研究センター研究員だった前述の C. ウォルツ氏指導による「ダンス・ノーティション・ワーク・ショップ」が、東京・赤坂の国際芸術家センターで開催された。これはラバン記譜法（Labanotation）による舞踊記譜法の紹介・普及を意図したデモンストレーションの会であり、筆者はその際、既述の「そうらん節譜」のコピーを持参して、同会へ参加した。そしてその会半ばの時点で、急遽、同舞踊譜を提示し、同氏にその再現実践を要望し、筆者が歌唱音頭と手拍子による伴奏役を務めながら、同氏は同譜初読であったが、概ね円滑にその再現・実演を完了した。

1963(S38). 10～11 前述の初顔合わせを契機として、同氏が同年11月から12月中旬にかけて予定していた「ラバン記譜法講習会」（毎週1回2時間；延6回のレクチャー）の同記譜法初心者用テキストとして、カール・ウォルツ著「舞踊記譜会話 Dance Notation Conversation」の作成の際、その日本語訳を、日本身体運動譜センターの一員として担当・協力した。

- (6) 1967(S42). 11 堀野三郎、長崎大学教育学部へ助教授として転勤。
- (7) 1973(S48). 9～'74(S49). 8 文部省派遣長期在外研修員として、「教育的舞踊運動の研究」をメイン・テーマとして、<ヨーロッパにおける教育舞踊の理論と実際><舞踊譜の研究><パントマイムの研究>の三目標を主軸として、前二者に関しては、主にイギリス・アドレストンの「The Laban Art of Movement Centre」（校長：Lisa Ullmann 女史、後任者 Marion North 女史、運動記譜法担当：Ann Hutchinson 女史、Vera Maletic 女史、Pauline Day 女史等）と当時の西ドイツ・エッセンベルデンの「Folkwank Hochschule」の名誉教授 Arbrecht Knust 氏に師事した。パントマイムにつ

いては、フランス・パリの「Theatre Ecole Movemmant et Parsse」を主宰する Bertrand Monique 女史に師事し、研究した。

- (8) 1981(S56).2 「第2回長崎モダンダンスの会 創作ダンス発表会」(於：長崎市民会館文化ホール2.21)での堀野三郎作品「いつか私はー」 「ウエスト・サイズ物語」の創作ノート中で、作品構想の横書きと共に、＜舞台配置・移動譜＞を一文節後に挿入したり、踊手の役割に応じた＜特徴的な運動譜＞を横書きの一連の文章中に挿入し、混用している。(〔資料V-1・2〕を参照。)
- (9) 1984(S59).2 「第3回長崎モダンダンスの会 創作ダンス発表会」(於：長崎市民会館文化ホール2.25)の狩野邦弘・狩野博美構成作品「ファイティング」での堀野三郎演出では、その時点から約12年後に筆者が公表したパソコンによる「堀野式簡易舞踊記譜法 SDMN-HS」の原形が、この時点で既に明確に確立していたことを示している。(〔資料VI-1・2〕を参照。)
- (10) 1985(S60)前期長崎大学教育学部小学校教育養成課程2年生対象の「体育実技＜表現運動＞用レポート課題」の「具体的な学習記録例」の＜動きの構成＞欄の中では、エフォート記譜法および簡略記譜法(運動主題記譜法；Motif Writing)が活用され、また、＜空間構成＞欄では、舞台配置・移動譜が活用されている。(〔資料VII-1・2〕を参照。)
- (11) 1997(H9).3 堀野三郎記譜「パソコンによるジャズダンスA譜」で「堀野式簡易舞踊記譜法(SDMN-HS)」の創案を公表した。(〔資料VIII〕＜譜例4＞を参照。)  
 なお、これに関する詳細は、既報の小論「身体運動における運動記譜法の応用」＜4＞～パーソナル・コンピュータによる堀野式簡易舞踊記譜法について～(比較舞踊学会・比較舞踊研究 3 pp. 65-84)を参照。
- (12) 1999(H11).9 堀野三郎記譜「パソコンによるジャズダンスB譜」が、前項と同様に、SDMN-HSにより記譜され、本論で初公開される。これらの具体的な詳細に関しては、紙面の都合上、次回の発表に譲りたい。

#### [主要参考文献・資料]

- 1) 堀野三郎(1995)身体運動における運動記譜法の応用<1>～運動の記録再現手段としての絵画的・言語的表現およびフィルムと運動記譜法との比較について～(長崎大学教科教育学研究紀要 25:33-43)
- 2) 堀野三郎(1996)身体運動における運動記譜法の応用<3>～ラバン記譜法におけるエフォート概念の活用について～(長崎大学教科教育学研究紀要 26:91-102)
- 3) 堀野三郎(1996)身体運動における運動記譜法の応用<4>～パーソナル・コンピュータによる堀野式簡易舞踊記譜法について～(比較舞踊学会・比較舞踊研究 3:65-84)
- 4) Hutchinson, Ann(1989)Labanotation or Kinetography Laban ~ The System of Analyzing and Recording Movement ~, Third Edition, Routledge/Theatre Arts Books, NY.

## [資料 1] 「日本身体運動譜センター設立趣意書」より in 1958

## 日本身体運動譜センター設立の趣旨と規約

日本身体運動譜センターは、身体運動の発展の普及と普及の発展、体育そのものの発展に寄与する大である。これらに各々の発展の中で最も重要な、最も世界的に普及されているラバントレーニングを基として設立する。

昭和三十三年九月一日 日本身体運動譜センター

◇ 本センターを「日本身体運動譜センター」とする。

◇ 本センターの目的は、次のとおりである。

一 身体運動の普及に資するため、ラバントレーニングの普及を図る。また、本センターとの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

二 各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターとの連絡調整を行って、ライプツィヒを模範とし、各々の発展に資する。

三 ラバントレーニングシステムに於ける国際的な普及に資するため、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

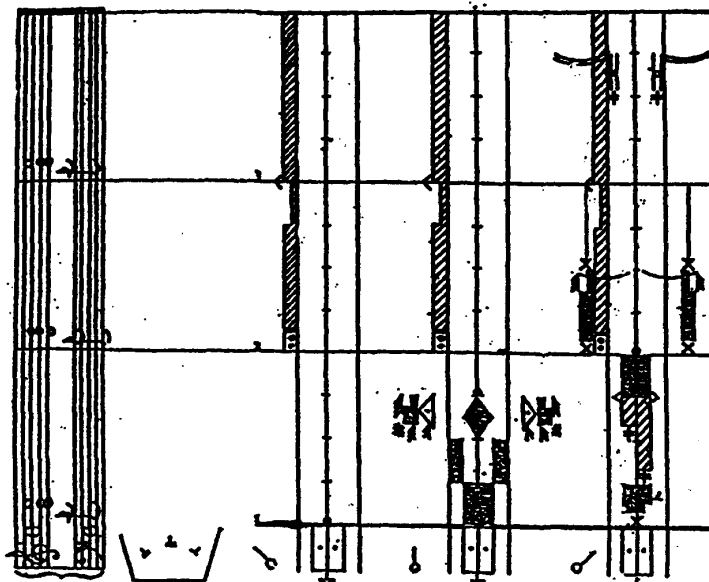
◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

◇ 本センターは、各々の発展に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

## [資料 1] &lt; 譜例 1 &gt; 「同センター設立の挨拶譜」 in 1958



この挨拶譜は、ラバントレーニングの普及に資するため、各々の発展に資する。また、本センターの連絡調整の下に、各々の発展に資する。

法語記

# I

工 本 費 入 入

◎ 日本舞踊協会のシンター (Japan Dance & Movement Notation Centre) 1956

本書の如可ある、無命も免れずの計可なく、或、致するところここに於て、  
す、星し西成、星星の目的、出陣を擬比して、致限する、致命はとる  
りよせん。

東京 日本郵船株式會社  
支店 日本郵船株式會社  
大阪 日本郵船株式會社  
神戶 日本郵船株式會社  
名古屋 日本郵船株式會社  
京都 日本郵船株式會社  
福岡 日本郵船株式會社  
札幌 日本郵船株式會社  
仙台 日本郵船株式會社  
青森 日本郵船株式會社  
岩手 日本郵船株式會社  
秋田 日本郵船株式會社  
山形 日本郵船株式會社  
福島 日本郵船株式會社  
茨城 日本郵船株式會社  
栃木 日本郵船株式會社  
群馬 日本郵船株式會社  
埼玉 日本郵船株式會社  
千葉 日本郵船株式會社  
東京 日本郵船株式會社  
神奈川 日本郵船株式會社  
靜岡 日本郵船株式會社  
愛知 日本郵船株式會社  
岐阜 日本郵船株式會社  
富山 日本郵船株式會社  
石川 日本郵船株式會社  
福井 日本郵船株式會社  
滋賀 日本郵船株式會社  
京都 日本郵船株式會社  
兵庫 日本郵船株式會社  
奈良 日本郵船株式會社  
和歌山 日本郵船株式會社  
三重 日本郵船株式會社  
滋賀 日本郵船株式會社  
岐阜 日本郵船株式會社  
富山 日本郵船株式會社  
石川 日本郵船株式會社  
福井 日本郵船株式會社  
滋賀 日本郵船株式會社  
京都 日本郵船株式會社  
兵庫 日本郵船株式會社  
奈良 日本郵船株式會社  
和歌山 日本郵船株式會社  
三重 日本郵船株式會社

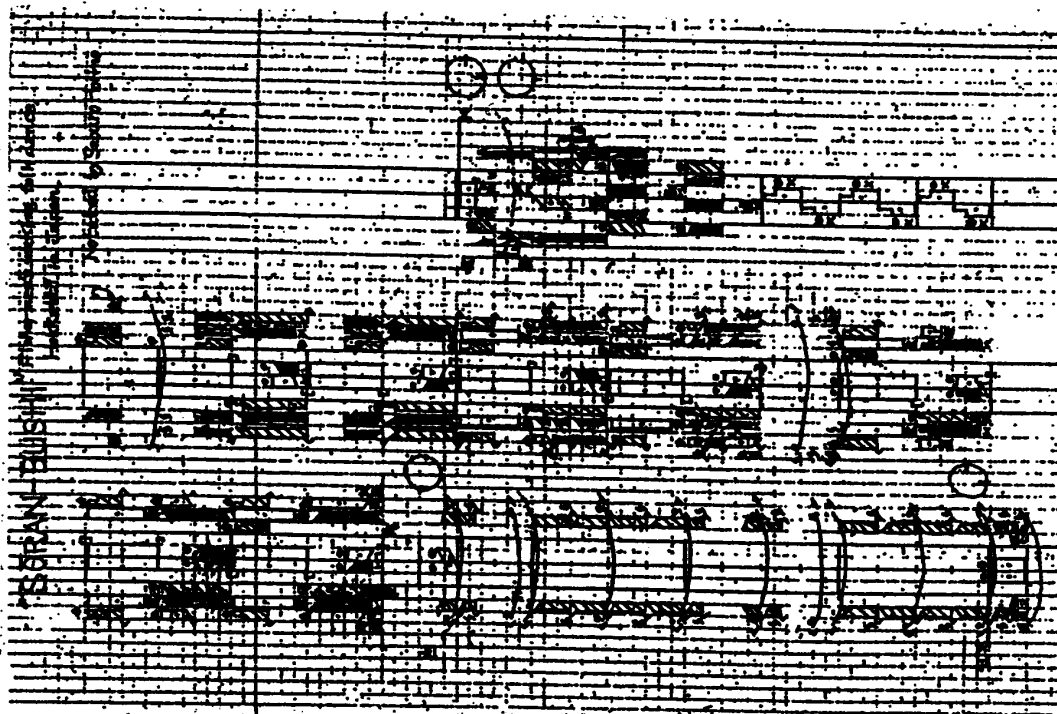
非 港 品 2.53

[illegible]

Ann Hutchinson  
 A. B. L. Wilson  
 Walter Sorell  
 Rudolf von Laban  
 Rudolf von Laban  
 Labanotation  
 "A Dictionary of Ballet"  
 "The Dance Has Many Faces"  
 "Principles of Dance & Movement"  
 Nézetin  
 Choreographie  
 "Method and Orthography of Kinetography of Laban"  
 Laban  
 "Schrifttanz"  
 "Abriss der Kinetographie Laban"  
 "Handbuch der Kinetographie Laban"  
 の記号と記号の用法

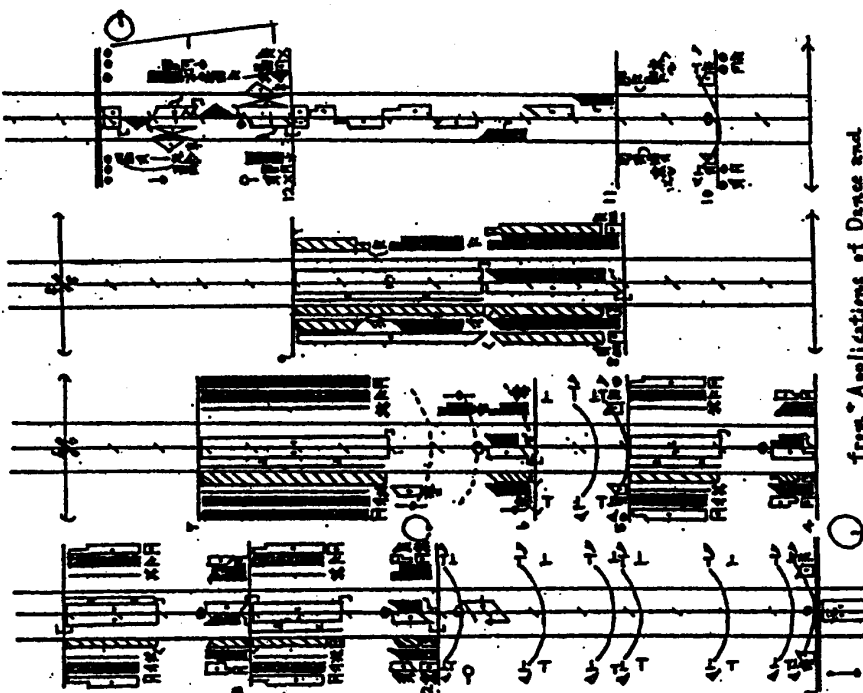
日本身体運動セブンタ一編著

[資料 III] < 譜例 3 > 「SORAN-BUSHI」 in 1974



[資料 III] < 譜例 2 > 「そらん節」 in 1959

Folk Dance "Sōran Bushi", Japan  
Notated by Sakurō Horioka

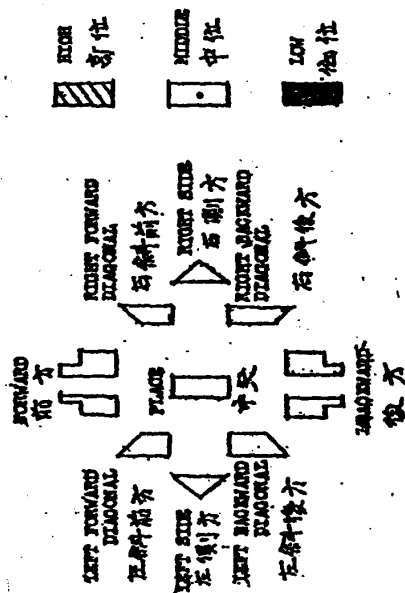


from "Applications of Dance and  
Movement Notation in  
Physical Education", 1959



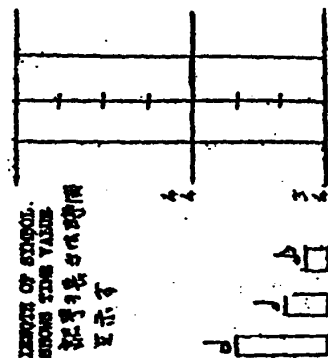
ラベノ短標本(9477-2000)短標本一覽表  
LABELOTATION ALPHABET OF BAKU SHORT

六、



長崎

**猪肉**



DEPTH OF SYMBOL.  
STOWS TIME VALUE  
証号ヲ異ニシテ時間  
ヲ示ス

[illegible]

下から上へ読みを注意。  
READ 'STAFF FROM BOTTOM TO TOP.

日本經濟學界對本國經濟發展之研究



**DANCE NOTATION**  
**CONVERSATION**

1763.11

**International Artists Center, Tokyo**  
36-1 AKASAKA HOTOYAKUCHO, MINATO-KU, TOKYO



[資料 VI-1] 「作品〈ファイティング〉の〈運動〉コンテ(1)」より in 1984

「ファイティング」 8x2, 8x2, 田 8x2, 8x2 | 8x2 | 田 8x2 → No.1

8x2	8x2	田	8x2
1-3 1/4 田 4 田 (up) 5 田 (up) 6 田 (up) 7 田 (up) 8 田	1 田 (up) 2 田 (up) 3 田 (up) 4 田 (up) 5 田 (up) 6 田 (up) 7 田 (up) 8 田	1 田 (up) 2 田 (up) 3 田 (up) 4 田 (up) 5 田 (up) 6 田 (up) 7 田 (up) 8 田	1-4 田 (8x2) 5-6 田 (up) 7-8 田 (up)
(8x2)	(8x2)	(田+8x2)	8 + (8)
①	①	1-2 田 (up) 3-4 田 (up)	1-2 田 (up) 3-4 田 (up) 5-6 田 (up) 7-8 田 (up)
(8x2)	(8x2)	(田)	(田) + (8)
① 田 (up)	① 田 (up)	① 田 (up)	① 田 (up)
② 田 (up)	② 田 (up)	② 田 (up)	② 田 (up)
③ 田 (up)	③ 田 (up)	③ 田 (up)	③ 田 (up)
④ 田 (up)	④ 田 (up)	④ 田 (up)	④ 田 (up)
⑤ 田 (up)	⑤ 田 (up)	⑤ 田 (up)	⑤ 田 (up)
⑥ 田 (up)	⑥ 田 (up)	⑥ 田 (up)	⑥ 田 (up)
⑦ 田 (up)	⑦ 田 (up)	⑦ 田 (up)	⑦ 田 (up)
⑧ 田 (up)	⑧ 田 (up)	⑧ 田 (up)	⑧ 田 (up)

[資料 VI-2] 「作品〈ファイティング〉の〈運動〉コンテ(2)」より in 1984

「ファイティング」 → 8x2, 8x2, 8x2, 田 8x2, 8x2, 8x2, 8x2 | 田 8x2, 8x2 No.2

8x2	(8x2)	8x2	田	8x2	田	8x2	田
1-2 田 (up) 3-4 田 (up) 5-6 田 (up) 7-8 田 (up)	①	1-2 田 (up) 3-4 田 (up) 5-6 田 (up) 7-8 田 (up)	1-2 田 (up) 3-4 田 (up) 5-6 田 (up) 7-8 田 (up)	1-2 田 (up) 3-4 田 (up) 5-6 田 (up) 7-8 田 (up)	1-2 田 (up) 3-4 田 (up) 5-6 田 (up) 7-8 田 (up)	1-2 田 (up) 3-4 田 (up) 5-6 田 (up) 7-8 田 (up)	1-2 田 (up) 3-4 田 (up) 5-6 田 (up) 7-8 田 (up)
(8x2)	(8x2)	(8x2)	(8x2)	(8x2)	(8x2)	(8x2)	(8x2)
①	①	①	①	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②	②	②
③	③	③	③	③	③	③	③
④	④	④	④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧



2. 簡易舞臺とその解説.

[illegible][illegible]

①ウ+一、ク+フ、ス×1	②キ+ア、カ+フ、ス×2	③ウ+一、ク+フ、ス×1	④ウ+一、ク+フ、ス×1
① 1 123456789 2 123456789 3 123456789 4 123456789 5 123456789 6 123456789 7 123456789 8 123456789 9 123456789	① 1 123456789 2 123456789 3 123456789 4 123456789 5 123456789 6 123456789 7 123456789 8 123456789 9 123456789	① 1 123456789 2 123456789 3 123456789 4 123456789 5 123456789 6 123456789 7 123456789 8 123456789 9 123456789	① 1 123456789 2 123456789 3 123456789 4 123456789 5 123456789 6 123456789 7 123456789 8 123456789 9 123456789

[illegible]

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿																																																		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

[illegible]

